

アスタの

Sèkmès スパイイス！ 第2回



ラバス！ 国際交流員のアスタです。

リトアニアの四月といえば、半分土の色、半分緑の色のイメージがします。春が来たことで、明瞭な変化が起こらないです。長い間残っていた雪が溶け始め、4月に入ると白い雪の道が灰色のコンクリートに変わります。そんな風景の中の日常はあまりにも色が足りなく、早く夏が来てほしいという思いをリトアニア人の中に生み出します。

リトアニアと比べて日本の四月は、「これから引き続き待つ」という感情ではなく、「もう来た」という気持ちだと思えます。最近その理由の源を掴んできた気がします。明らかな気候の違いの影響を除いて、私の目から見れば、日本では1年に二つの始まりがあります。「新年」と「新年度」。新年は日が異なっても世界中で祝われています。過去1年間を振り返り、よりいい未来をもたらし、希望を与える新年を祝います。リトアニアにいた時、新年に入った後、社会として大きな変わりがなく、普通のペースに戻りますが、日本の社会は、目で見えない何かを終わらせる3ヶ月が始まります。落ち着いた感じで、残った「来年度」までの時間でやるべきことをする雰囲気です。

4月までお別れの準備、4月から新しい始まりだとも言えるのでしょうか？ 社会人にとってそれは仕事、家族や若者にとって進学の準備ではないかと思えます。それは日本社会の大きな動きの一つの例ですが、地域や人により、準備する、終わらせることがそれぞれですね。私の場合、お別れのこと感じて、少し寂しい気持ちになりましたが、その3ヶ月の間、また何か新しいことが来ると納得しました。リラックスして変化を求めて行きたいと思えます。

皆さんはいかがでしょう？ 新しい風が吹き始めましたか？

■問い合わせ■

企画財政課企画情報係 電話 2-1120

町ホームページでAstaの日記を更新しています！是非見てください。

